

福岡アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議 次第

第 4 回

日 時： 令和6年 12 月 26 日(木) 14時 00 分～

場 所： 福岡アジア美術館 8階会議室

－ 次 第 －

1. 事務局より挨拶

2. 議事

・今後の方向性に関する論点の整理

3. 意見交換

< 配付資料 >

資料Ⅰ 第4回「アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議」資料

参考資料 ・ 令和 6 年 12 月議会 経済振興委員会 報告資料

「アジア美術館の魅力向上の検討状況について」

- 1.これまでの振り返り
- 2.今後の方向性に関する論点の整理

1. これまでの振り返り

(1)第1回から第3回までの議論

第1回

アジア美術館の現状と課題

「基本理念」

- ・ アジアとの交流拠点、福岡
- ・ 世界に唯一、アジアの近現代美術の専門館
- ・ 創造・発信する交流の場
- ・ 「まち」の中のライブな美術館

現状分析

達成できている点

- ・ 先駆的な取り組みを継続してきた結果、開館より25年を経て、確固たる地位を築いている
- ・ 優れた芸術性と独自性を持つアジアの近現代美術作品を収集・展示しており、国内外の美術関係者からの評価は高く、市民の貴重な財産となっている
- ・ アジア近現代美術の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を系統的に収集し、その数は約5,000点にのぼる

主な課題

- ・ 作品の価値や魅力を市民に十分に届け切れていない
- ・ 市民や観光客にとって、気軽に立ち寄る場所と認識されていない
- ・ 設備の老朽化により機能が低下している
- ・ 展示スペースや収蔵スペースが手狭になっている

魅力向上の方向性

○機能拡充の基本的な考え方

- | | |
|------------|--|
| ① 展示機能 | コレクション展示のソフト・ハード面での改善をおこない、多様な人々がアジア美術に触れるためには、気軽に立ち寄り、集客が見込める場所での展開が望ましい |
| ② 収蔵機能 | 作品の保存・管理には、空調システムや高いセキュリティを備えた設備が必要となるため、既にこれらの機能を備えた現館の機能を活用しながら、不足する面積と設備を拡充し、収蔵機能と調査研究機能を一体化することが望ましい |
| ③ 集客・賑わい機能 | 多様な来館動機を創出し、アジア美術との出会いの機会をつくるため、展示機能と一体的に展開することが望ましい |

○主な機能分担のイメージ

★拡充する機能 / ■既存の機能

【現アジア美術館(7・8階)】

- ★収蔵機能
- ★貸館機能
市民や企業の発表(展示)の場
- ★調査研究機能
アーカイブ(これまでに収集・蓄積してきた作家資料、所蔵品資料、写真資料、映像資料等)、ライブラリー、作品研究室

【拡充スペース】

- ★展示機能
コレクションを中心とした多様な企画展示
魅力的でダイナミックな展示
- ★集客・賑わい機能
多様な来館動機の創出
アジア美術との出会いの機会の創出

第2回

拡充先の選定

○拡充先の条件整理(必要な規模感、前提条件など)

9月議会報告

第3回

拡充先の選定

○評価・比較 ⇒ 評価・比較結果より、他の土地と比べ、
警固公園地下駐車場 がアジア美術館の拡充先としてふさわしい

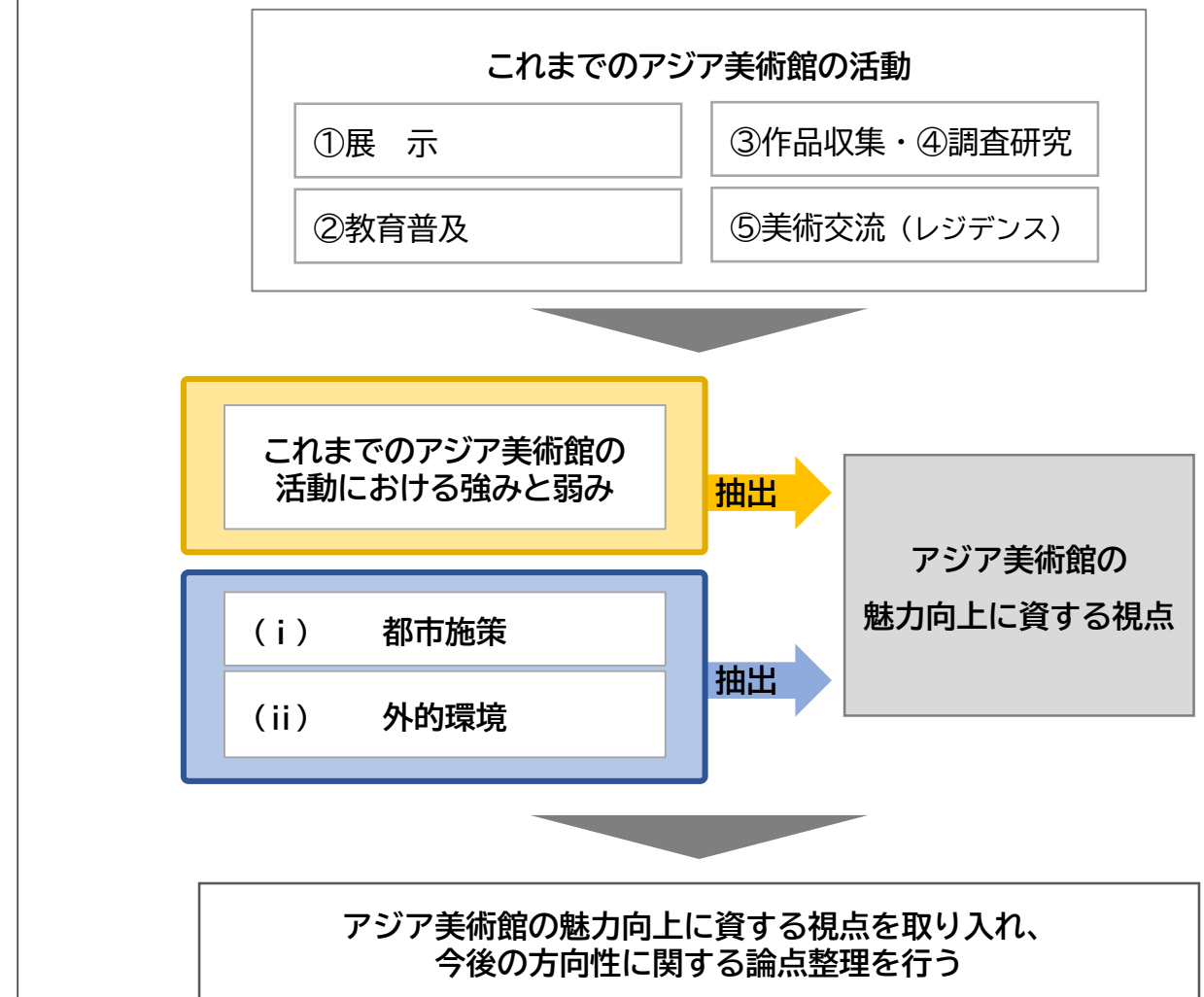
12月議会報告

2. 今後の方向性に関する論点の整理

(1) 論点整理の手順

これまでの議論を踏まえて、直面するソフト・ハード両面の課題解決を図りながら、先駆的に取り組んできた活動にさらに磨きをかけ魅力向上を図る。ここでは下記の手順で、アジア美術館の魅力向上の今後の方向性に関する論点整理を行う。

論点整理の手順



2. 今後の方向性に関する論点の整理(つづき)

(2) アジア美術館の活動における強みと弱み

人 材	・専門的人材：学芸員7人、学芸スタッフ8人、ボランティア244人
入館者数	・2023年実績 427,800 人
①展 示	優れた芸術性と独自性を持つアジアの近現代美術作品を系統的に紹介する所蔵品展、様々な時代・地域・ジャンルのアジア美術の魅力を紹介する小企画展、最新のアジア近現代美術を中心に、アジアと関連のある幅広い分野の特別企画展等を開催。
強 み	・所蔵品展：年平均10回、小企画展：年平均1回、 特別企画展：5回の「福岡アジア美術トリエンナーレ1999/2002/2005/2009/2014」、 2024年より「バーチャル・ミュージアム」開設
弱 み	・2014年以降、最新のアジア現代美術を紹介する大型国際展を行っていない ・アジア美術は、文化的な背景などの知識も踏まえなければ、価値や魅力を感じる事が難しい作品が多く、それらを市民に十分に届け切れていない
②教育普及	ワークショップや講演会などの教育プログラム、ボランティアスタッフによる作品解説、アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせなどを通じて、アジアの美術や文化に理解を深める機会を設けている。 広報誌「あじびニュース」やホームページ等で、アジア美術の情報を発信。
強 み	・学校対応 年26回（2023年度実績）、2024年から市内小学校向け対話型鑑賞プログラムを実施 読み聞かせ 年112回（2023年度実績）
弱 み	・展示と連動した作品鑑賞のためのプログラムが不足している ・障がいのある方や高齢者向けのプログラムがない
③作品収集	優れた芸術性と独自性をもつアジア23か国地域の近現代美術の絵画、彫刻、版画、写真、映像など多様な作品を系統的に収集。
強 み	・コレクション約5000点（近代～現代、大衆美術、民俗美術含む） ・他館での「アジ美コレクション展」累積8回 →他館にはない、現代美術だけでなく、近代美術や大衆美術や民俗美術を含んだ幅広いコレクション
弱 み	・近年、十分な作品購入ができておらず、最新の現代美術作品の収集ができていない
④調査研究	現地調査やそこで収集した貴重な資料を用いて、アジア各国の近現代美術に関する研究を進め、その成果を展覧会や講演会などの形で発表し、アジア美術関係機関・関係者とのネットワークを構築。
強 み	・現地調査で得た記録写真、資料、図書（約6万点）、情報の蓄積 ・アジア美術資料室（ウェブサイト）
弱 み	・2014年以降、広範な現地調査が行えておらず、情報の更新や研究を深めることができていない
⑤美術交流 (レジデンス)	アジアからアーティストや研究者を招へいし、作品制作やワークショップ、パフォーマンス、講演会などの活動を通して、地域の人々との美術交流を実施。
強 み	・アーティスト114人、研究者27人 ・アーティストは滞在最後に成果展実施 ・アーティストによるワークショップ 年平均13回 →開館当初より交流事業を進め、その実績は他館でも類を見ない
弱 み	・2018年以降、研究者を招へいしておらず、研究分野での交流が行えていない

(3) 都市施策・外的環境

以下の(i)、(ii)の分析を行い、アジア美術館の魅力向上に資する、今後の方向性に関する論点を検討する

(i)都市施策

○福岡市の基本施策

施設の拡充にあたり、前提となる福岡市の都市像について確認する。

人口減少が大きな問題となっている日本において、福岡市は人口増加率が日本一となるなど成長を続けており、「人と環境と都市活力が高い次元で調和したアジアのリーダー都市※」を目指し、下記のよ

うな都市像を描いている。こうしたまちづくりに貢献できることが、重要な要素となる。

福岡市基本構想

「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」

1. 自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
2. 自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
3. 海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
4. 活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

※現在、策定に向けて総合計画審議会へ諮問中の「第10次福岡市基本計画(答申)」(R6.11)より

○Fukuoka Art Next (FaN)

福岡市では、2022年より、海を通じて世界とつながり、その長いアジアとの交流の歴史の中で、多様な価値観を受け入れながら、創造力や感性を大事にするという気風や土壌が培われてきたことから、暮らしの中にアートが溶け込み、彩りにあふれたまちを目指す「Fukuoka Art Next (FaN)」を推進しており、市民がアートに触れる機会を増やし、その価値や魅力を感じてWell-beingを向上させるとともに、アーティスト活動を支援し、世界で活躍する福岡発のアーティストの増加を目指すなど、福岡市におけるアートへの関心は高まっている。

○都心部のまちづくり

福岡市の都心部では、規制緩和を活用し、先進的なビルへの建替えを促す、官民連携のまちづくり「天神ビッグバン」「博多コネクティッド」を推進しており、建替えにあわせ、水辺や緑、文化芸術、歴史などが持つ魅力にさらに磨きをかけ、多様な個性や豊かさを感じられる、多くの市民や企業から選ば

れるまちづくりを進めている。

今後の活動に必要な視点

アジアの交流拠点

アジアとの近接性や、これまでのアジアとの交流への先進的な取り組みを生かし、交流拠点としてアジアの多様な美術・文化をつなぎ、ネットワークのさらなる充実を促進する

心豊かに生きる

市民の生活の質を向上させ、アジア美術を通じて感性や創造性を刺激することにより、ひとり一人の文化的な豊かさをはぐくむ
特に子どもや若者たちに、多様な文化への共感や理解を促し、よりよい未来を創造する力をはぐくめるような体験を提供する

多様な価値観

あらゆる個性や価値観を持つ人々が尊重し合い、参加し共存することのできる社会の在り方が求められており、学びや交流を通して相互理解や共感創出を高める

観光資源となる魅力

歴史や文化を生かした観光資源を磨き上げ、付加価値の高い観光誘客を推進する

2. 今後の方向性に関する論点の整理(つづき)

(ii) 外的環境

福岡アジア美術館の開館以降も、アジア諸国は著しい経済成長を続け、アートにおいても目覚ましい成長を遂げている。それにより、アジア美術への注目度は高まり、アジア諸国のアーティストやキュレーターが国際的な芸術祭や展覧会で活躍する場面も増え、アジア美術の市場価値も高騰している。

日本国内にも、森美術館や金沢21世紀美術館など、当館以外でも、アジアの現代美術を取り扱う館が登場し、また最近では、2021年に香港にアジアの現代美術の専門館であるM+が誕生した。

国内では、2022年の博物館法の改正に伴い、美術館には、文化観光拠点施設としての役割が求められているほか、アジアにおいてもアートの社会的な重要性は高まっている。

前述の3館は、こうした美術館の社会的なニーズに的確に対応し、展示だけでなく、教育普及プログラムを充実させて、地域とつながることで存在感を示し、また広報・マーケティングを重視し、専門部署において戦略的に行うことで、集客的にも成功をおさめている。これらの館の取り組みを参考に、重要な要素を取り入れていく必要がある。

一方で、これらの館でも、当館でおこなっている現代美術にはおさまらない大衆美術や民俗美術、また近代美術を含めた幅広いコレクションや継続的なレジデンスは行われてはならず、当館の独自性を示す要素であることがわかる。

以上のことから、アジア美術の価値を多くの人に広く知ってもらうために、アジア美術館が取り入れていくべき要素と、アジア美術館の独自性を示すためにさらに磨き上げるべき要素を、今後の活動に必要な視点として抽出する。

今後の活動に必要な視点

- 教育普及プログラムの充実
年齢やバックグラウンドに応じた多様な教育プログラムで、未来を担う子どもや若者たちも含め、あらゆる人々へ学びの機会を提供することが重要
- 地域とつながる
地域と連携することで、存在感を高め、周辺に集まる人々が気軽に立ち寄りたくなる施設となる
- 広報・マーケティング
時代にあった戦略的な手法で、美術に関心のある層だけでなく、新たな来訪者層を開拓
- 長年にわたる美術交流（レジデンス）
レジデンスは、滞在時の活動で終わるのではなく、その後の展開が見込める事業であり、それはアジア美術館の独自性を強める要素となる
- 現代美術におさまらない幅広いコレクション
現代美術だけでなく、近代美術や大衆美術や民俗美術を含んだ包括的なコレクションは、ここでしか見られない展示と、アジア美術への深い理解へとつながる
- アートによる都市の魅力向上
今後の美術館の活動には、文化観光拠点としての役割や、「都市の魅力向上」の視点も含めた活動も必要であり、地域の活性化と福岡市の都市ブランドの形成に貢献する

(4) 論点の整理

社会のニーズに答えながら、アジアのリーダー都市としてふさわしい美術館となるべく、魅力向上に向けた、アジア美術館の今後の方向性を検討するため、これまで抽出してきた視点を美術館活動ごとに論点として整理する。

- ①展示 の方向性
心豊かに生きる × 多様な価値観 × 広報・マーケティング
- ②教育普及 の方向性
充実した教育普及プログラム × 多様な価値観
- ③作品収集 と ④調査研究 の方向性
現代美術におさまらない幅広いコレクション × アジアの交流拠点
- ⑤美術交流（レジデンス） の方向性
長年にわたる美術交流（レジデンス） × アジアの交流拠点
- ⑥都市の魅力向上 の方向性
地域とつながる × 観光資源となる魅力 × アートによる都市の魅力向上

経済振興委員会報告資料

アジア美術館の魅力向上の検討状況について

令和 6 年 12 月
経済観光文化局

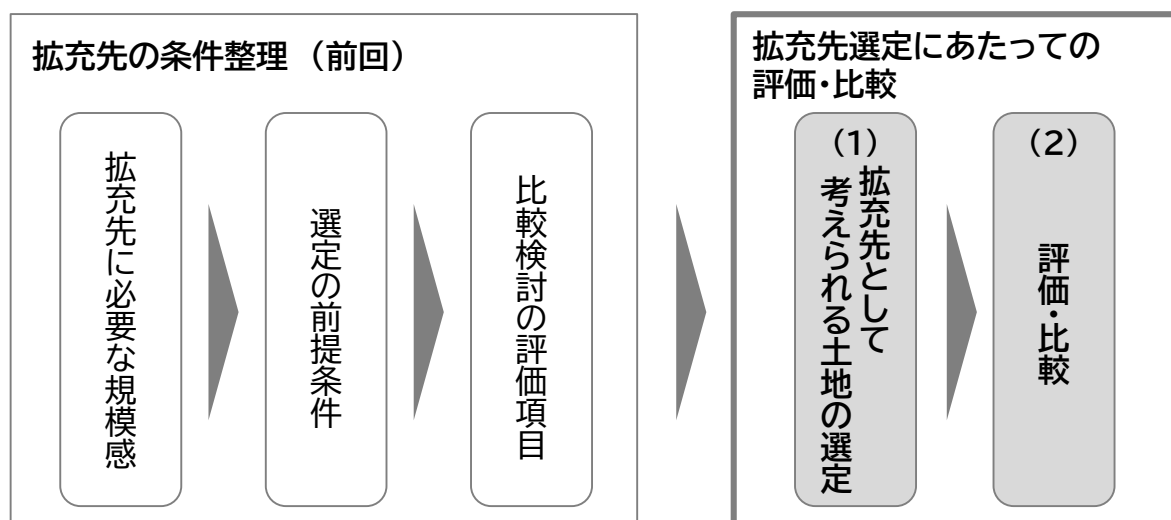
アジア美術館は、1999年にアジアの近現代美術を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館として開館し、国内外の美術関係者からの評価は高く、その先駆的な取り組みによって、市民の貴重な財産となっているが、その価値や魅力を広く市民に届け切れておらず、十分に活かしきれていないことから、令和5年度より魅力向上の検討を行っている。

これまで、令和6年2月に主な課題の整理と解決の方向性について、9月には魅力向上の方向性および拡充先の条件整理について報告を行ったところであり、今回、検討状況について報告するもの。

1. 拡充先として考えられる土地の選定

(1) 拡充先選定の進め方（9月議会報告より）

拡充先選定に向けては、以下の手順にて条件を整理し、土地の評価・比較を行っていく。



(2) 拡充先として考えられる土地の洗い出し

9月議会報告において整理した、下記の条件に基づいて、都心部に位置する公有地を優先とし、活用の可能性が考えられる土地や未利用地(跡地)などを拡充先として考えられる土地を洗い出す。

選定の前提条件(9月議会報告より)

- ① 拡充先の状態について
計画のしやすさや、土地取得の可能性の高さといった、実現可能性の観点から、公有地を優先とし、空地や活用の可能性が見込める予定の土地等であること
- ② 拡充先の規模について
→ 床面積規模の想定 約7,500～9,000㎡程度
※必要な規模感(想定) 展示機能：2,000～2,500㎡
→ 展示室の高さの想定 約4～5m以上
- ③ 拡充先が位置するエリアについて
→ 都心部に位置する土地であること

※ 美術館として長期的に占有するため、取得可能な土地を対象とする

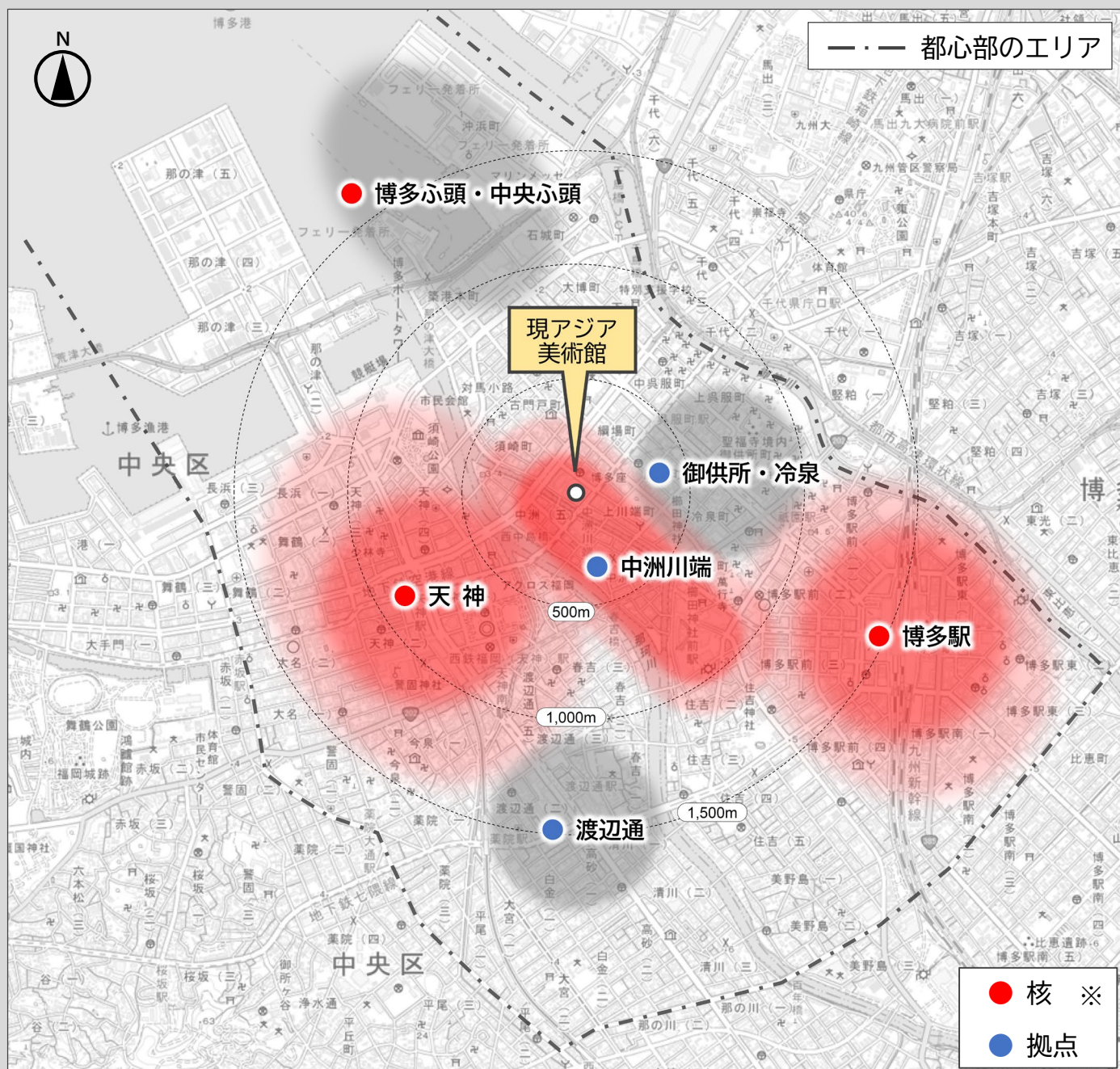
※ 公有地としては公園も該当するが、既に多くの市民に利用されており、既存の公園の機能を低下させずに、美術館としてふさわしい形態で建築可能な面積を有する公園が見当たらないため、公園は除外する。ただし、既存構造物の活用が見込める「警固公園地下駐車場」は拡充先として考えられる土地に含めるものとした

拡充先として考えられる土地が位置するエリアは、都心部のうち、現アジア美術館との近接性・回遊性や、集客性・賑わい性、都市機能の集積等が高いエリアを対象とし、土地の洗い出しを行う。

＜検討結果＞ 都心部の核および拠点に対し、現館が「中洲川端」エリアに位置することを踏まえながら、近接性・回遊性については現館との距離・移動時間を、集客性・賑わい性については歩行者交通量を、都市機能の集積状況については商業、業務機能を始めとした多様な機能の集積状況を鑑み、以下のエリアを対象とした。

⇒ 天神エリア周辺、博多駅エリア周辺、中洲川端エリア周辺に位置する土地とする

<位置図>



※「福岡市都市計画マスタープラン 都心部の将来の都市構造（都心部編）」（H26.5）を参考に記載

2. 評価・比較

前述で絞り込んだ対象地について、「比較検討の評価項目」に基づき評価・比較を行っていく。評価にあたっては、小項目ごとに評価し、評価結果を総合的に比較し、拡充先を決定する。

<比較検討の評価項目>

大項目	小項目	評価の内容・視点
土地の状況	整備の実現性	・ 早期の整備実現可能性（土地取得可能時期など） ・ 展示機能に必要なとなる規模の面積が確保可能か等、土地の面積等を踏まえた美術館立地の実現可能性
美術館活動	美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上	・ 芸術文化、文化観光の象徴的な施設としての展開可能性 ・ 周辺施設（商業、業務機能等）との連携など、アート、文化観光の核としての展開可能性 ・ 文化的施設（文化施設、ギャラリー等）との連携など、アート、文化観光の核としての展開可能性 ・ 美術館立地によるまちへ与える影響
利便性	広域からのアクセス、交通アクセス	・ 主要駅（博多駅、空港駅、天神駅）からのアクセスのしやすさ ・ 最寄りの公共交通機関（電車、バス）からのアクセスのしやすさ
集客性	歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数	・ より多くの、多様な集客が昼夜ともに見込めるか
安全性	安全安心	・ 災害等のリスクへの対策可否
経済性	土地取得費、建設工事費	・ 各土地において美術館を建設する際の土地取得費、建設工事費を概算し、経済的かどうかを評価する

2. 評価・比較 (つづき)

○評価・比較結果

A：非常に優れている 5点、B：優れている 4点、C：普通 3点、
D：やや劣っている 2点、E：劣っている 1点

カテゴリー		公有地		公有地		
対象地		ボートレース福岡第4駐車場		冷泉小学校跡地		
概要		土地面積 約 7,267㎡ 美術館を新設		土地面積 約 6,800㎡ 美術館を新設		
土地の規制状況		準工業地域(準防火地域) 臨港地区(商港区) 建蔽率 60%、容積率 300%		商業地域(準防火地域) 建蔽率 80%、容積率 400%		
比較検討の評価項目	土地の状況	整備の実現性	・現在、駐車場として利用しており、かつ臨港地区により建てられる建物用途に制限があるものの、実現可能性はある ・土地取得に際しては、土地を所管する港湾空港局と本格的な協議が必要 ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能	C 3点 ↓ (6点)	・敷地中央部に遺構が横断しており、これを考慮した施設配置を検討したところ、1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保することが困難	D 2点 ↓ (4点)
	美術館活動	美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上	・建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できる ・周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と比べ少なく、連携が期待しにくい ・文化的施設数が現館よりやや少なく、連携が期待しにくい ・まちへの文化芸術の面的な広がりが期待しにくい	C 3点 ↓ (6点)	・当該地は地域をはじめとして、様々な機能の導入が求められており、複合的な施設となる可能性が高く、美術館単体としての象徴的な施設展開が難しくなる懸念がある ・周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と同程度であり、連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館と同程度であり、連携が期待できる ・市内外から多様な人々が集まり、文化的価値の波及を期待できる	B 4点 ↓ (8点)
	利便性	広域からのアクセス、交通アクセス	・主要駅からの到達時間が現館と比べるとやや時間がかかる ・最寄のバス停(福岡市民会館)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能	C 3点	・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(櫛田神社前駅)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能	B 4点
	集客性	歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数	・歩行者交通量が現館に比べ少なく、昼夜も差があり、やや偏りがある ・最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い	C 3点 ↓ (6点)	・昼夜ともに歩行者交通量が多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(中洲川端、櫛田神社前駅)の乗降客数が多い	B 4点 ↓ (8点)
	安全性	安全安心(洪水/高潮)	対策可能 (約0.5m未満/約3.0m以上)	C 3点	対策可能 (約0.5～1.0m/約3.0m以上)	C 3点
	経済性	土地取得費、建設工事費※	土地取得費+建設工事費 1.3 ※新築工事費を基準(1.0)とする	B 4点 ↓ (8点)	建設工事費 1.0 ※新築工事費を基準(1.0)とする ※市有地のため土地取得費不要	A 5点 ↓ (10点)
総合評価		50点満点 100点満点 換算	・経済性の評価が比較的優れている ・整備の実現性や美術館活動、集客性などの評価が高くない	32点 ↓ 64点	・経済性の評価が高く、利便性、集客性なども比較的優れている ・整備の実現性がやや劣る	37点 ↓ 74点
有識者からの主な意見		・必要な面積が確保でき、建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できるという評価は妥当 ・付近に新しく市民ホールが整備されるものの、総合的に周囲との連携が期待しにくい土地と考えられる ・多くの市民や来訪者の利便性を考えると、さらに評価は低下する ・このエリアにおける上位計画との整合性を検討する必要がある		・博多部において歴史・文化の観点から重要な場所に位置していると考えられる ・敷地を遺跡が横断しており、美術館を拡充するにあたっての面積が十分に確保出来ないため、評価が低いことは妥当 ・車両が通り抜けできない道があり、この土地の接道条件を踏まえて、美術品輸送の大型車両の動線は検討する必要がある		

※拡充先を選定するにあたり、重要な視点である、「整備の実現性」、「美術館活動」、「集客性」、「経済性」は2倍として評価する
 ※土地取得費・建設工事費について

- ・土地の取得を基本的な条件とし、土地取得費には建物取得費も含む
- ・約7,500㎡～9,000㎡の床面積の規模感において、美術館の内装工事費を想定して試算
- ・建設工事費には外構工事(公園整備費等)、備品購入費(展示ケース等)等は含まないものとする

公有地		民間用地	
警固公園地下駐車場		天神・博多駅エリアの民間ビル内	
土地面積 約 11,382㎡ 既存地下駐車場の構造物を活用		民間ビルの低層階に占有	
商業地域(防火地域) 都市公園法により建蔽率 12% 容積率 400%, 600% ※既存公園施設含む		商業地域(防火地域) 建蔽率 80%、容積率 600% ※想定	
・都市公園法による建蔽率の制限があり、地上部の建築計画に制限があるものの、既存の地下構造物を活用可能であり、実現可能性が高い ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能	B 4点 ↓ (8点)	・低層階への配置が望ましいが、民間の開発動向に左右され、美術館配置に関する協議調整・合意形成に時間を要するなど、実現性が不透明 ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能	D 2点 ↓ (4点)
・地下であるものの、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できる ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・公園を介して、まちへの文化芸術の面的な広がり期待できる	A 5点 ↓ (10点)	・複合的な施設となり、建築的自由度は施設の状況により左右される可能性がある ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・ビルを中心とした文化芸術のまちへの広がりを期待できる	B 4点 ↓ (8点)
・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(西鉄天神福岡駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能	A 5点	・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(天神駅・博多駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能	A 5点
・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い	A 5点 ↓ (10点)	・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅・博多駅)の乗降客数が非常に多い	A 5点 ↓ (10点)
対策可能 (約0.5～2.0m/約3.0m以上)	C 3点	対策可能と考えられる	C 3点
建設工事費 1.0 ※基準である新築工事費(1.0)とほぼ同額 ※市有地のため土地取得費不要	A 5点 ↓ (10点)	土地取得費(建物取得費含)+建設工事費 3.0～3.8 ※新築工事費を基準(1.0)とする	D 2点 ↓ (4点)
・美術館活動や利便性、集客性、経済性の評価が高く、その他の項目についても比較的優れている	46点 ↓ 92点	・利便性、集客性の評価が高い ・整備の実現性、経済性がやや劣る	34点 ↓ 68点
・地下だが必要な面積も確保できる等美術館としての利用は可能と考えられ、地上部の公園との連携も期待できる ・地下特有の課題(地下水や埋設物等)に対する検討が重要 ・既存構造物の再利用をすることは、環境負荷の低減が期待でき、行政としても非常にチャレンジングで評価に値する		・民間ビルに公共施設が一緒になることによって総合的に都市デザインに繋がっていくことは意義があると考え ・ビル全体のコンセプトや開館時間、将来の更新計画等、開発計画のみならず開館後の運営面でも民間ビル側の意向にかなり左右されることが懸念される ・開発計画からの調整となると、かなりの時間を要すると考えられ、実現性が不透明というのは妥当	

3. 警固公園地下駐車場の検証

○警固公園地下駐車場の検証

警固公園地下駐車場について、既存構造物の構造的な検証、美術館としての活用可能性の検討を行った。

(1) 構造物概要 <警固公園地下駐車場(福岡中央自動車駐車場)>

所在地	福岡市中央区天神2丁目2番地 警固公園地下	構造	鉄筋コンクリート造 地上1階 地下2階
竣工年	昭和41年4月	基礎	直接基礎(べた基礎)
公園面積	約11,382㎡	延床面積	約11,292 ㎡

(2) 既存構造物の構造的な検証

警固公園地下駐車場の既存構造物が、美術館として活用することが可能な構造的な健全度を有しているか確認するため、調査を行ったもの（令和6年6月に現地調査を実施）

①調査項目

■コンクリートの強度を確認するもの

i. コンクリート圧縮強度試験

■鉄筋コンクリートの劣化状況を確認するもの

ii. コンクリートの中性化深さ試験

iii. 鉄筋の腐食状況調査

iv. ひび割れ・漏水状況調査

②調査結果まとめ

調査の結果、構造的に致命的な欠陥となり得る劣化等はみられず、今後の改修において必要な対策を行うことで対処が可能であり、また、構造的な安全性の確認を行った結果、高い構造的耐力と耐震性を有する健全な構造物であることが確認できた

(3) 美術館としての活用可能性の検討

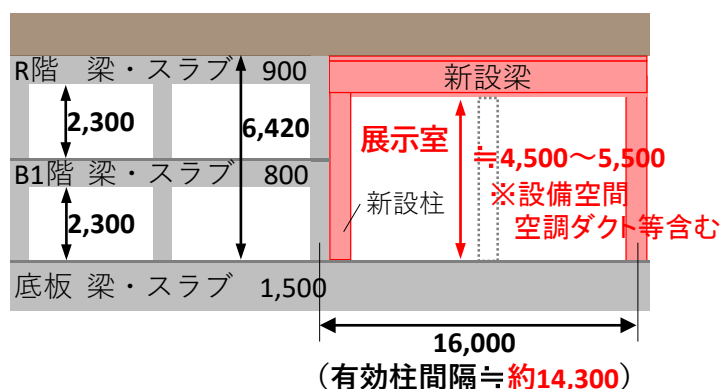
①検討の内容

展示室として必要な規模感として想定した、床面積約2,000㎡～2,500㎡程度、高さ約4～5m程度の空間が確保できるかを確認するもの

②検討結果まとめ

必要な補強を施せば、上記の空間の確保が可能であることを確認した

(検討案)



(4) 検証のまとめ

構造の調査および活用可能性の検討の結果、警固公園地下駐車場を今後も既存構造物を活用することは可能と判断できる。また、美術館としての空間も確保しつつ活用することが可能であるため、アジア美術館の拡充先としての評価・比較の対象とする土地として有効と言える

4. 今後の進め方

調査検討を進めてきた結果、警固公園地下駐車場は、既存構造物が美術館として十分活用可能なこと、複数の土地について評価比較を行い最も評価が高く、拡充先としてふさわしい場所であることから、警固公園地下駐車場を候補地として、今後、アジア美術館の拡充に向けた具体的な機能分担や必要な機能配置、運営手法、事業手法など、基本計画の策定に向けた検討や関係者との協議を行っていく。

有識者意見概要

■各対象地についての評価

<ボートレース福岡第4駐車場>

- ・必要な面積が確保でき、建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できるという評価は妥当
- ・付近に新しく市民ホールが整備されるものの、総合的に周囲との連携が期待しにくい土地と考えられる
- ・多くの市民や来訪者の利便性を考えると、さらに評価は低下する
- ・美術館を起爆剤として新しい人の流れを作ろうとした場合に、既存の土地のイメージとターゲットとの間にずれがあり、臨港地区（商港区）に位置していることも含め、イメージを刷新するのに時間を要する懸念がある
- ・このエリアにおける上位計画との整合性を検討する必要がある

<冷泉小学校跡地>

- ・博多部において歴史・文化の観点から重要な場所に位置していると考えられる
- ・博多遺跡の重要性に鑑みて、当地では遺跡を活かすことを第一にした整備が必要ではないか
- ・拡充にあたっては、様々な機能を持たせるために、余裕を持って床面積を確保できることが条件だと思うが、敷地を遺跡が横断しており、美術館を拡充するにあたっての面積が十分に確保出来ないため、評価が低いことは妥当
- ・車両が通り抜けできない道があり、この土地の接道条件を踏まえて、美術品輸送の大型車両の動線は検討する必要がある

<警固公園地下駐車場>

- ・地下だが必要な面積も確保できる等美術館としての利用は可能と考えられ、地上部の公園との連携も期待できる
- ・地上から地下につながる「導入部」の存在が美術館とまちをつなぐ重要な結節点になるため、その部分のデザインの作りこみが重要
- ・展示機能だけではなく、作家による作品制作・ワークショップの場や、人が集まれるような場等、様々な機能に必要な面積が取れるのは評価できる。また、将来のことを考え、当面の利用分だけでなく、余裕をもって面積を確保しておく必要がある
- ・地下への搬出入動線の確保は検討が必要
- ・地下特有の課題（地下水や埋設物等）に対する検討が重要
- ・既存構造物の再利用をすることは、環境負荷の低減が期待でき、行政としても非常にチャレンジングで評価に値する
- ・都心にこそ文化の拠点があることが重要であり、都市計画・都市デザインの観点から見ても、文化施設がこの場所に立地することは評価に値する

<天神・博多駅エリアの民間ビル内>

- ・民間ビルに公共施設が一緒になることによって総合的に都市デザインに繋がっていくことは意義があると思う
- ・ビル全体のコンセプトや開館時間、将来の更新計画等、開発計画のみならず開館後の運営面でも民間ビル側の意向にかなり左右されることが懸念される
- ・開発計画からの調整となると、かなりの時間を要すると考えられ、実現性が不透明というのは妥当

■警固公園地下駐車場の検証について

- ・既存構造物を活用するため、構造調査や設計は技術的な観点からしっかり検討する必要がある

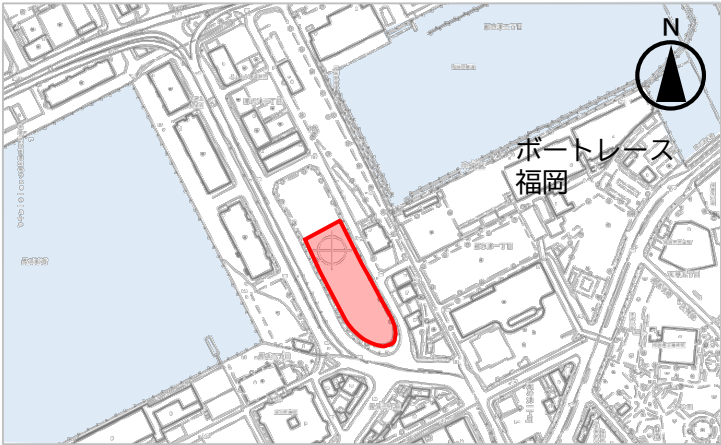
■ 対象地ごとの個別検討

展示機能に必要なとなる規模の面積が確保可能か等、個別に検討を行った。

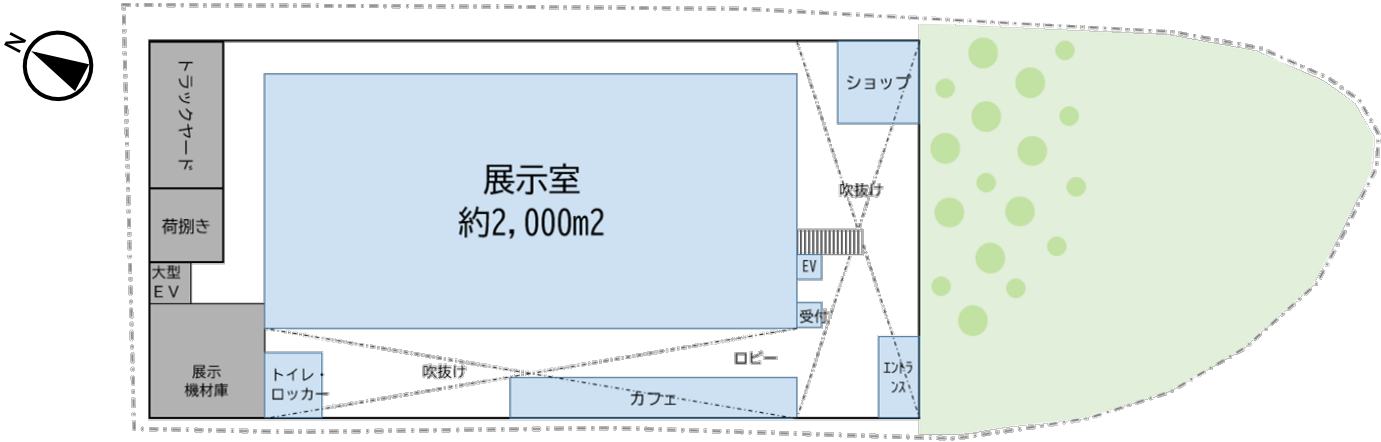
ボートレース福岡第4駐車場

ボートレース福岡第4駐車場については、臨港地区のうち、商港区に指定されている須崎ふ頭に含まれているため、施設配置にあたっては留意する必要があるが、約7,300㎡の敷地内で美術館配置の可能性について検討を行った。

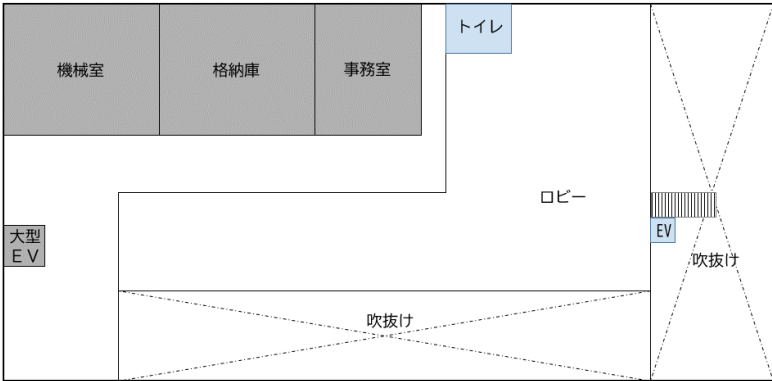
<位置図>



<1F平面図>



<2F平面図>



敷地面積：7,267㎡
建ぺい率：60%

建築可能面積：約4,300㎡

<立面図>

2F	事務室・機械室等
1F	エントランス・賑わい・展示室等

報告事項3(参考資料2)

※以下の配置計画については、対象地の評価・比較を行うにあたり、どの程度の展示室配置が可能であるかを主眼に置いた検討を行ったものであり、具体的な配置計画については、今後詳細な検討を行うこととする。

冷泉小学校跡地

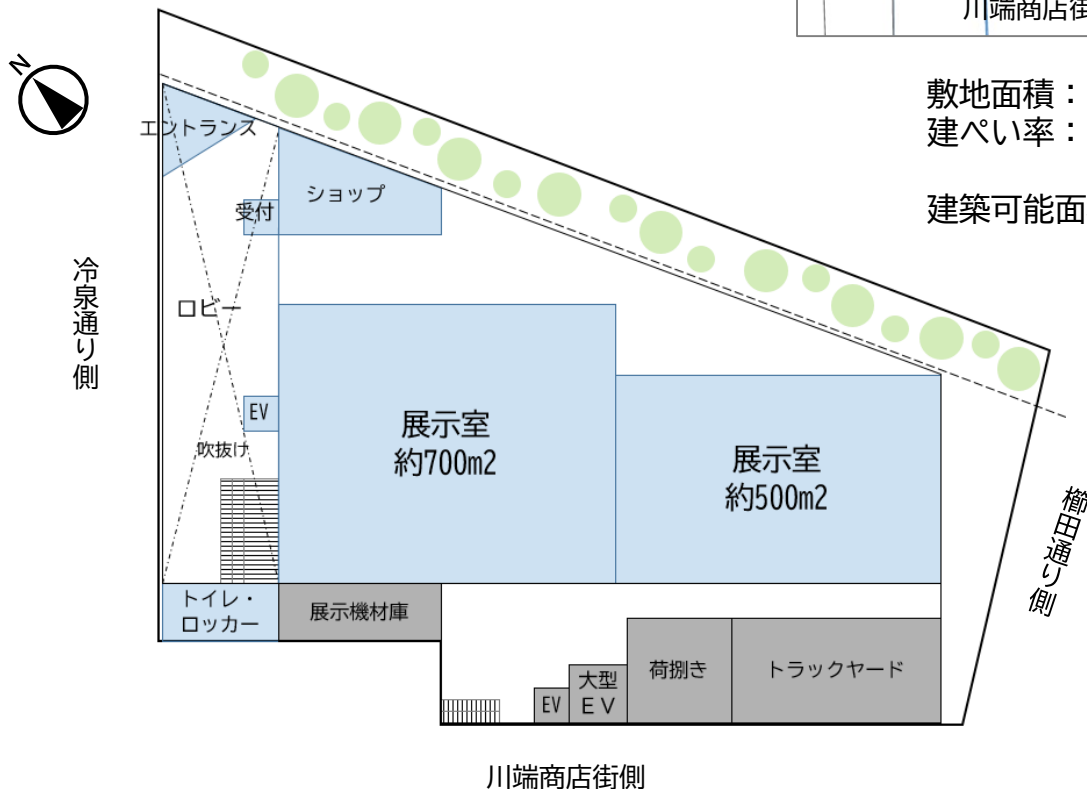
冷泉小学校跡地については、敷地面積6,800㎡の中央部に国史跡「博多遺跡」が存在し、建物を建てることや上空を構造物で覆うことは許可されないため、博多遺跡部分を除く両区画を比較し、面積が広くとれるA区画にて美術館配置の可能性について検討を行った。



敷地面積：3,300㎡
建ぺい率：80%

建築可能面積：2,640㎡

<1F平面図>



建築可能面積に対して配置計画を行った場合、展示室は、面積約1,200㎡となり、必要な展示面積を確保するためには、1・2階に展示室を配置する必要がある。

<立面図>

必要な規模を確保するためには3階建てとなる。(2,640㎡×3=7,920㎡)

3F	事務室・機械室等
2F	展示室・賑わい等
1F	展示室・エントランス等

警固公園地下駐車場

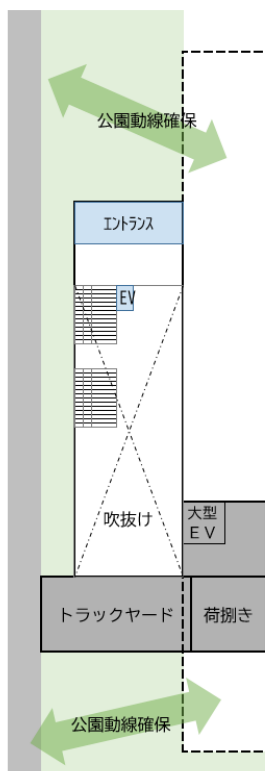
警固公園地下駐車場については、地下部分の既存躯体を活用するとともに、現在の車路部分に地上と地下をつなぐための増築を行った場合の美術館配置の可能性について検討を行った。

<地上平面図>

ソラリアプラザ側



岩田屋側

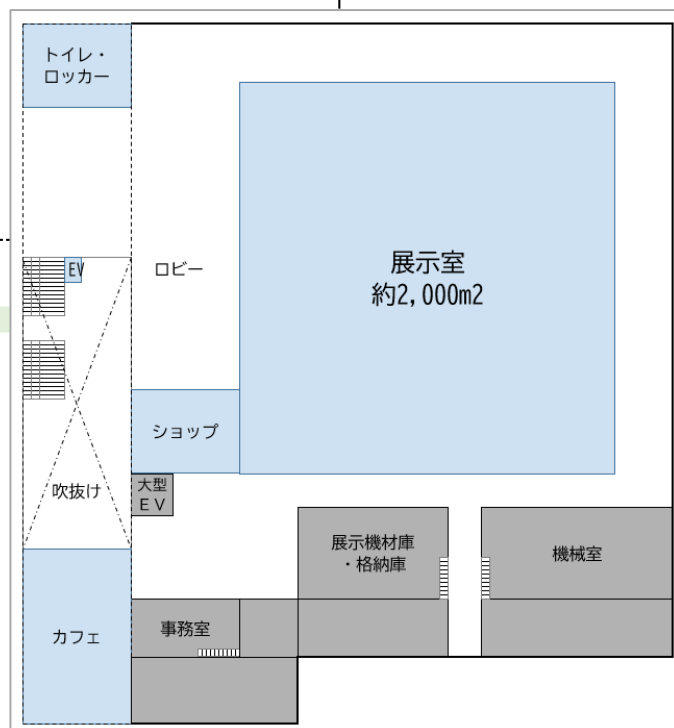


地下駐車場平面積
約5,100㎡
※車路部分を除く

西鉄福岡(天神)駅側

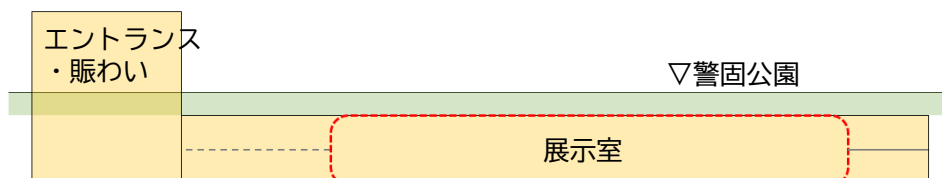
<地下平面図>

警固神社側



<断面図>

<< 増 築 >>



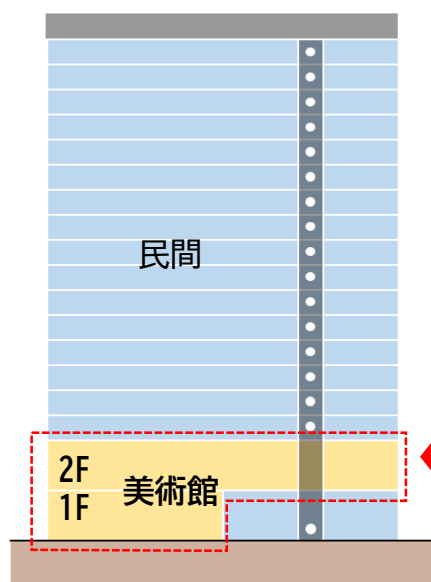
地下1・2階の二層構造を一層化し、
展示室に必要な天井高さを確保

※以下の配置計画については、対象地の評価・比較を行うにあたり、どの程度の展示室配置が可能であるかを主眼に置いた検討を行ったものであり、具体的な配置計画については、今後詳細な検討を行うこととする。

民間ビル内

民間ビル内については、天神ビッグバン・博多コネクティッドのエリア内、**建築面積を5,000㎡程度と仮定し、低層階での美術館配置の可能性について検討**を行った。

<立面図>

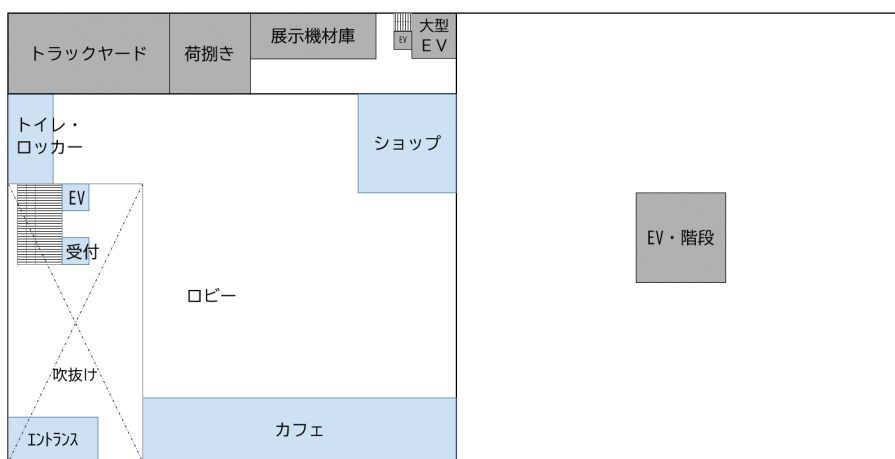


ビルの1・2F部分を美術館として区分所有することを想定

※ 現在のアジア美術館の課題解決を図るために、低層階への配置を検討

※ 美術作品の恒久的な展示の場であるために、区分所有を検討

<1F平面図>



美術館ゾーン ← | → 民間ゾーン

<2F平面図>

